

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 心身ともに健全でたくましく、将来の目標に向かって努力できる生徒を育成する。 (2) 社会の秩序を守り、他者への思いやりを忘れず、自己の責任を果たそうとする生徒を育成する。 (3) 郷土に誇りを持ち、主体的に未来を切り拓くことができる生徒を育成する。	学校整理番号	23
(2) 現状と課題	地元中学校の学力上位の生徒は市部の高校や私立高校に進学する。さらに地元中学校や周辺地域中学校の生徒数が年々減少しており、定員に満たない状況が続いている。しかし、野辺地町からは部活動や大学進学を希望する生徒への支援を受けており、本校生徒は町主催の行事やボランティア活動に積極的に参加したり、地元商工会と連携し地域活性化の協議をしたり、地域との関係は良好である。SNSの使用も含めて相手のことを考えた言動ができること、多様な学力の生徒がいる中で基礎学力を定着させること、生徒一人一人が希望する進路を実現することが課題である。	学校名	青森県立野辺地高等学校
(3) 重点目標	1 1 学習指導・研修の充実→「師弟同行」	の課程	校舎
	2 2 生徒指導・教育相談の充実→「掃除と挨拶、5分前」	自己評価実施日	令和5年1月27日(金)
	3 3 キャリア教育・健康教育の充実→「22世紀まで生き抜く力」	学校関係者評価実施日	令和5年2月14日(火)
	4 4 働き方改革の推進と非遵行為の根絶→「魅力的な教職員」	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校関係者評価には学校評議員をあてている。 なお学校評議員4名の構成は以下のとおりである。 教育関係者から1名 地域関係機関から1名 本校同窓会から1名 本校PTAから1名
(4) 結果の公表	保護者及び職員による学校評価アンケートは学校HPで公開している。		

番号	(5) 評価項目	自 己 評 価			学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	学習指導・研修の充実	①生徒一人一人の可能性を引き出す教育活動の実践、生徒が分かる授業のための教材の精選とICTの活用及び教材研究を行い、資格取得等を積極的に推進することにより、学習に対する興味・関心を高める。	・授業アンケート等を活用しながら生徒の実態を把握し、「学ぶ楽しさを感じる授業」を展開した。 ・ICTを活用した授業実施に向けての校内研修を実施し、教職員の指導力・資質の向上に努めた。	B	・学力の向上にも努めながら、各種検定の受検を勧めていると感じる。しかし、受検を希望しない生徒も多い。受検者と合格者の増加を図るために、一工夫して欲しい。	・教員のICT活用の指導力の向上を目指し、校内研修や各教科の教材研究を進めていく。 ・基礎学力定着のための具体的な方法や時間を検討する。 ・各種検定への受検者数を増やす工夫を検討していく。	
2	生徒指導・教育相談の充実	①社会の一員として、適切な生活態度を身につけさせるとともに、多様な個性との触れ合いから、他者を認め、思いやる豊かな心を育てる。 ②様々な問題や悩みを抱える生徒の早期発見と個々の生徒の状況に応じた適切な指導や支援が行えるよう、教育相談委員会を中核とした組織的な対応に努める。	・挨拶、清掃、5分前行動、正しい服装を奨励し、その必要性を理解させ、主体的に実践できるように指導した。 ・生徒会の活動目標である「過ごしやすい学校づくり」「思いやりのある行動」と連携して指導することで、安全で安心な学校づくりの推進に効果的に取り組むことができた。 ・初期段階において、教育相談委員会を機能させ、外部関係機関との連携を図ることで、重症化の防止に努めている。	B	・社会人になるとルールを守ることが大切になる。高校は決められたルールを守る期間であると思うので、生徒指導を通して今後も継続的に指導していただきたい。 ・中学校の生徒が町内の除雪作業をしている。高校生も町の中で作業するような活動も良いのではないかと。	・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部の関係機関との連携を図って、個々の生徒に応じた適切な支援体制を作っていく。 ・生徒が安全・安心に学校生活を送れる教育環境を今後も継続できるように、生徒会活動と連携して指導していく。	
3	キャリア教育・健康教育の充実	①職業体験、学校見学等、校外での学びも積極的に活用し、生徒が社会とのつながりを意識して自らを成長させ、進路を切り開けるよう支援する。 ②自他の命を大切にし、生涯を通じて心身の健康の保持増進に努める能力と態度を育成する。	・3年生は全生徒が企業見学やオープンキャンパスを活用し、具体的な進路選択に繋げることができた。1・2年生でのキャリア教育については保護者も巻き込む形で見直していきたい。 ・健康観察や手指消毒、換気等の感染症予防対策と各自の健康増進について、一人一人が主体性を持って行動できるよう、保健だよりや学校生活の様々な場面で声かけを行った。	B	・高校になると保護者との関係が希薄になっていくが、保護者が学校に来たくなるような工夫をしていくことが大切であると考えている。 ・総合的な探究の時間で地域課題に取り組んでいるが、町内の小中と連携して系統的に取り組んでいけると良いのではないかと。	・野辺地町役場や商工会議所と連携して、職業人講話や地域の防災教育を実施し、地域について自ら進んで課題解決に向けて取り組める生徒の育成に尽力する。 ・中学生の体験学習や小学生を対象にした寺子屋を実施するなど、地域の方々には本校についての理解を深めてもらう。	
4	働き方改革の推進と非遵行為の根絶	①職員がワークライフバランスを見直し、人間性や創造性を高め、生徒たちに効果的な教育活動を行うことができるようにする。 ②教育公務員としての使命と責任、そして誇りを常に意識し、法令遵守を徹底する。	・教職員が休暇を取得しやすいようにマニュアルを作成した。 ・教員の業務支援のためSCやSSWを積極的に活用した。 ・職員会議等で、リーフレットを用いるなどして法令遵守や規範意識の向上を図るようにした。	B	・働き方改革の推進について、特に教職員の健康管理については、管理職に積極的に取り組んでもらいたい。	・特定の教員に負担がかからないように、人員配置や改革を含め見直す。 ・教員が協力して意見を出し合い、事務処理の効率化を推進する。	

(11) 総括	少人数教育を生かし、生徒一人ひとりに対応し「分かる授業」を実践し、生徒の学力向上と意識の高揚を図ることに取り組んできた。「持続可能な地域づくり『あおもり創造学』プロジェクト事業」に全学年で取り組み、3学年では成果発表会を実施した。地域活性化に向けた生徒のプレゼンテーションを野辺地町の教育長や町会議員そして地域の方々にも披露することができた。教職員においては、法令遵守や規範意識の向上に努めた。
---------	---